

# 修験道テーマに講演

## 東大寺で宗教者フォーラム

宗教や宗派の違いを超えて県内の宗教者らが語り合う「第9回県宗教者フォーラム」が29日、奈良市の東大寺であった。「神と仏と



様々な宗教者らが、大仏殿の壇上にあがり、国内の災害からの早期復興を祈った。奈良市の東大寺

日本のこころを修験の歴史「展開」をテーマにした公開講座に、宗教関係者のほか、一般参加者ら約350人が耳を傾けた。

奈良で宗教者が果たせる役割を探り、多様性を尊重したメッセージを発信しようとして2004年から始まった。

前回に続き、修験道について考える内容で、はじめにアジア宗教・文化研究所の久保田展弘代表が講演。

「絶えず自然と向き合い、実践を重ねながら練り上げたのが修験道」としたうえで、「現代の孤立化、無縁

化している社会の中で心の落ち着きを得るには、自ら動き、まねごとでも宗教に触れていく必要があると思う」と話した。続いて、慶應義塾大の宮家準・名誉教授（宗教民俗学）が講演。

奈良における修験道の歴史や活動などを、古代、中世、近世にわけて解説した。フォーラムの前には、東日本大震災や全国各地で起きた風水害からの復興を願った大仏殿で「日本復興祈願祭」を開催。宗教者らは、それぞれの作法で早期の復興を祈った。